

KDDI ファイルストレージ

KDDI ファイルストレージ

ユーザーズガイド

スマートデバイス 旧アプリ編

第 1.1 版

KDDI 株式会社

2015 年 12 月

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国、およびその他の国における登録商標です。

iPad、iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。

iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

Android、Google play は、Google Inc.の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標は、Oracle Corporation やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

本文中に ™、®、©は明記していません。

Copyright © 2015 KDDI CORPORATION. All Rights Reserved.

目 次

目 次	3
はじめに	4
(重要) 旧アプリケーション(Ver.1.x)の配信停止・サポート終了について	5
本書の表記規則	6
本書で使用される用語	7
1 スマートデバイスのアプリケーションからアクセスする	8
1.1 アプリケーションをインストールする	8
1.2 アカウントの設定をする	8
1.3 ファイルを開く	10
1.4 その他各種設定、機能について	15

はじめに

このたびは、KDDI 株式会社の「KDDI ファイルストレージ」をご利用いただき、誠にありがとうございます。

このサービスは、ユーザーがブラウザやメール、WebDAV 接続、スマートフォン(Android,iPhone/iPad)などを使用して 安全にファイルを送信・受信したり、共有ができるサービスです。

本書は、利用するユーザー側のスマートデバイス(iPhone/iPad、Android)の旧アプリケーション(Ver.1.x)の操作方法について説明をしています。

なお、本書で説明のアプリケーションは、2017 年 10 月 31 日をもって、App Store 並びに Google Play から配信を停止し、お問い合わせなどのサポートも終了する予定ですので、ご注意ください。詳しくは、次のページをご参照ください。

(重要) 旧アプリケーション(Ver.1.x)の配信停止・サポート終了について

本書で説明するスマートデバイス(iPhone/iPad、Android)の旧アプリケーション(Ver.1.x)は、2017年10月31日をもって、App Store 並びに Google Play からの配信を停止し、お問い合わせなどのサポートも終了する予定です。現在、本アプリケーションをお使いの場合は、2015年10月にリリースしました新アプリケーション(Ver.2.x)への移行をお願いします。

なお、移行に当たり、設定情報やローカルに保存したファイルの引き継ぎなどはできませんので、ご了承ください。

2017年10月31日に配信を停止予定の Ver.1.x のアプリケーション

OS	iOS(iPhone/iPad)	Android
アイコン		
アプリケーション名称	KDDI Storage	File Storage

以下の新アプリケーション(Ver.2.x)への移行をお願いします。



File Storage

※新アプリケーションは、名称、アイコンともに、iOS/Android で共通です。

本書の表記規則

本書は、次に示す一定の表記規則にしたがって書かれています。

一般の表記

表記例	意味
メニューの[ファイル(F)]-[開く(O)]	メニューのコマンドの選択経路をあらわします。 この例では、[ファイル(F)]メニューに含まれている[開く(O)]コマンドをあらわしています。
<OK>ボタン、<次へ(N)>ボタン <OK>または<適用>ボタン	コマンドボタン名は、山カッコ(<>)で囲んであらわします。
「ファイル名」、「入力値」 「画面名」、「ダイアログ名」 「参照場所」	構文中の鍵カッコ(「」)で囲んである部分は、ファイル名や入力値などをあらわします。また、画面名やダイアログ名、参照する場所などを示す場合も鍵カッコ(「」)で囲んであらわします。
チェックを入れる、チェックを入れない	メニューのコマンドやダイアログのチェックボックスなどを ON(または OFF)することをあらわします。

マウス操作の表記

表記例	意味
クリック	マウスの左ボタンを押して、すぐ離すことです。
右クリック	マウスの右ボタンを押して、すぐ離すことです。
ダブルクリック	マウスの左ボタンを素早く2回クリックすることです。
ドラッグ&ドロップ	マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、任意の位置でボタンを離すことです。

キー操作の表記

表記例	意味
[SHIFT]キー	キーは、大カッコ()で囲んであらわします。
[F]→[O]キー	キーが右矢印(→)で区切られている場合は、それぞれのキーを順に押すことをあらわします。 この例では、[F]キー、[O]キーを順に押すことをあらわしています。
[Ctrl]+[A]キー	2つのキーの間にあるプラス記号(+)は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すことをあらわします。 この例では、[Ctrl]キーを押しながら、[A]キーを押すことをあらわしています。
矢印キー	[→]キー、[←]キー、[↑]キー、[↓]キーの総称です。

記号の表記

記号	意味
	「注意事項」を意味します。 取り扱い、使用方法などに関する注意事項や、設定を行う際の注意事項を説明しています。
	「関連」を意味します。 設定を行う際の関連箇所を説明しています。
※	「注釈」を意味します。 簡単な補足説明などのコメントを記述しています。

本書で使用される用語

「KDDI ファイルストレージ」

KDDI 株式会社が提供するインターネット経由でご利用いただくサービスです。
ユーザーはブラウザやメール、WebDAV 接続、スマートフォン(Android/iPhone/iPad)などを使用して安全にファイルを送信したり、受信、共有することができます。

管理者

ユーザーの作成など、「KDDI ファイルストレージ」内でユーザー環境の設定や管理を行う管理者のことです。

ユーザー

「KDDI ファイルストレージ」を利用することができるユーザーのことです。管理者にて作成することができます。

ドメイン

「KDDI ファイルストレージ」の契約単位のグループのことです。基本的にはご契約いただいた企業のメールアドレスの「@」の後ろのドメイン名と一致します。

例)

メールアドレスが「user01@example.co.jp」の場合、ドメイン名は「example.co.jp」

ユーザーフォルダ

ユーザーフォルダはユーザーごとに作成することができるフォルダです。ほかのユーザーからは参照することができません。

グループフォルダ

グループフォルダはグループごとに作成することができるフォルダです。グループに所属するユーザーが参照することができます。

Web 公開フォルダ/ファイル

「KDDI ファイルストレージ」システム内にアカウントが存在しないユーザーにファイルを配信することができる機能です。ファイルダウンロード用の URL を生成し、その URL を相手に通知することでファイルの配信が可能になります。別途ダウンロード回数や公開期間を設定することもできます。

受取フォルダ

「KDDI ファイルストレージ」システムにアカウントが存在しないユーザーからファイルを受け取ることができる機能です。ファイルアップロード用の URL を生成し、その URL を相手に通知することでファイルの受け取りが可能になります。別途アップロード回数や公開期間を設定することもできます。

メールオプション

「KDDI ビジネスメール」の加入者用のオプション機能です。メールに添付したファイルが自動で「KDDI ファイルストレージ」にアップロードされ、メール受信者はメールに挿入された URL からファイルを受け取ることができる機能です。

1 スマートデバイスのアプリケーションからアクセスする

「KDDI ファイルストレージ」上に保管されたファイルには、専用ビューワアプリケーションを利用することで、Android/iPhone/iPad からアクセスが可能となります。ここではその利用方法について、簡単に解説をします。(iPad の場合も同様です。)

1.1 アプリケーションをインストールする

1. Google Play(Android の場合)、App Store(iPhone、iPad の場合)にて、「KDDI ファイルストレージ」で検索して、アプリケーションをインストールします。
2. アプリケーションのインストールが完了すると、アプリケーションのアイコンが追加されます。

1.2 アカウントの設定をする

1. 「サーバーを追加…」をタップ。



2.「KDDI ファイルストレージ」をタップ。



3. ブラウザで「KDDI ファイルストレージ」にログインする際のユーザーID、パスワードを入力し、右上の<保存>ボタンをタップして完了です。



1.3 ファイルを開く

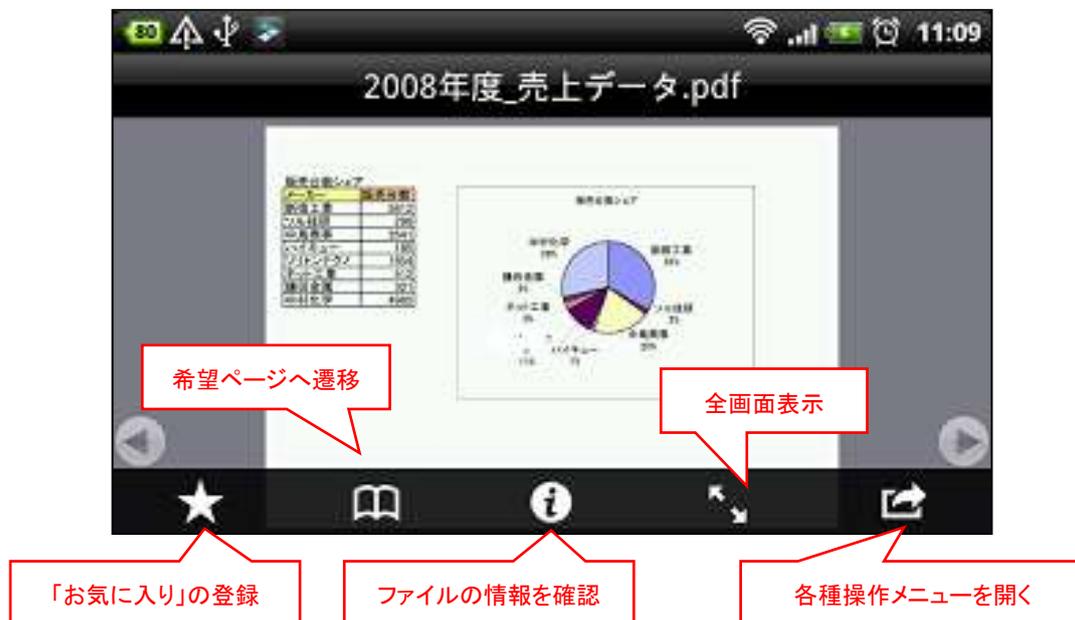
1. 追加されたアカウントのソースをタップします。



2. 階層をたどり、ファイルを開きます。(Android の例)



3. 以下のようにファイルが開きます。(Android の例)



※「お気に入り」に登録すると、ファイルがアプリケーション内のローカルに保存されるため、電波の届かない場所でもファイルの閲覧が可能になります。

4. PDF ファイルではプレゼンテーション機能が利用可能です。
これは別途、外部映像出力ケーブルを用意し、端末とプロジェクターやディスプレイとを接続し、PDF ファイルの内容を投影、ポインタを表示させる機能です。

※Android と iPhone/iPad では一部、動作が異なります。

※Android では対応機種に限られます。

(1)PDF ファイルを開き、右下のメニューボタンをタップします。



1 スマートデバイスのアプリケーションからアクセスする

(2)表示されたメニューから「プレゼンテーション」をタップします。



(3)プレゼンテーションモードに切り替わります。



※Android アプリケーションでは、端末側の画面と外部に投影した画面は同じとなります。

※iPhone/iPad アプリケーションでは、端末側の画面に時計やタイマー、ページ送りのボタンなどが表示されます。

※iPhone/iPad と Android アプリケーションの機能、表示可能なファイルの違いは、下記の通りです。

機能		iPhone/iPad	Android	
機能	写真のアップロード	○	×	
	動画のアップロード	○	×	
ファイルの閲覧	PDF	パスワードなし	○	
		パスワード付き	○	△ (AdobeReader などほかのアプリケーションで開くことができます。)
		プレゼンテーション	○	○ (全画面表示、ポインタ表示のみ)
	Microsoft Office (doc、docx、xls、xlsx、ppt、pptx)		○	△ (ほかの内蔵の Office ビューワアプリで開くことができます。)
	iWork(Pages、Keynote、Numbers)		○	×
	画像	jpg	○	○
		gif	○	○
		png	○	○
		bmp	○	○
		tif	○	×
	動画	mp4	○	○
		m4v	○	○
		mov	○	×
	音声	mp3	○	○
		wav	○	○
		aac	○	×
aif、aiff		○	×	
m4a		○	×	
テキスト		○	○	
HTML		○	△ (Mobile Document Viewer など、ほかのアプリケーションで開くことができます。)	

 注意

- ・MS Office ファイルは日本語を含む場合は、特に型くずれなどが発生しやすいため、PDF での閲覧を推奨します。
- ・上記にあるファイル形式であっても、すべてのファイルの閲覧を保証するものではありません。

1.4 その他各種設定、機能について

アプリケーション起動時の画面左上の「設定」をタップすると、「お気に入り」や「履歴」、「パスコードロック」などの各種設定ができます。また、画面下のボタンから「お気に入り」や「履歴」を開くことができます。

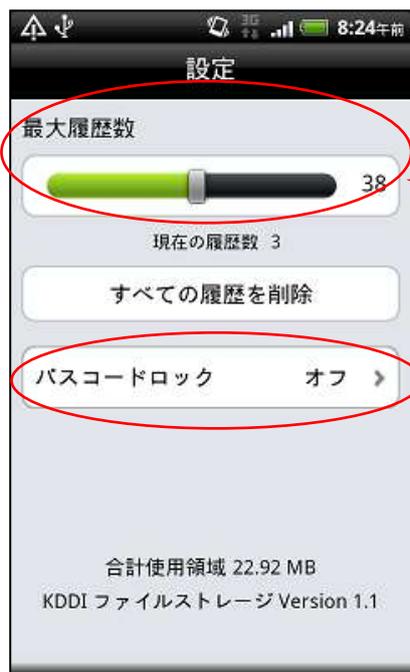


用語の説明

名称	内容、動作
ソース	<ul style="list-style-type: none"> 各フォルダを開いている場合は、TOP 画面に移動します。 「お気に入り」、「履歴」の画面を開いている場合は、直前に開いていたフォルダに戻ります。
お気に入り	<ul style="list-style-type: none"> 任意のファイルを登録すれば、サーバのフォルダをたどらずに、すぐにファイルにアクセスできます。 ファイル閲覧画面で「★」をタップして登録し、ファイルはローカルに保存されます。 登録されたファイルは一括で最新のファイルに更新することもできます。 <p>なお登録件数に特に制限はありません。</p>
履歴	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧したファイルは履歴として端末のローカル内に保存されます。 保存できるファイル数は直近の 25～50 個のファイルです。保存できる最大履歴ファイル数は「設定」画面にて設定可能です。 最大履歴ファイル数を超えて新たなファイルをダウンロードした場合は、一番古い履歴ファイルを削除します なお履歴に残っているファイルと同じファイルを開く場合、新たにダウンロードせず、履歴のファイルを開きます。これにより閲覧までの時間短縮が可能です。
パスコード	<ul style="list-style-type: none"> アプリを起動する際に求められる 4 けたの数字です。 「設定」>「パスコードロック オン」で設定可能です。(次項で詳細説明) パスコードを 10 回失敗すると 10 分間ログインできない、または「KDDI ファイルストレージ」アプリケーション内のデータをすべて削除します。 データ削除については、パスコードロックを設定する際にオン、オフを設定可能です。

1 スマートデバイスのアプリケーションからアクセスする

1.「設定」について



保存できる最大履歴数を設定。初期値は25で最大50まで設定可能。

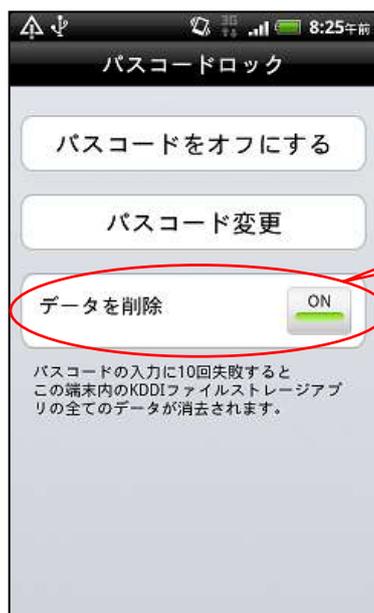
本アプリを開く際の、パスコード入力のオン・オフを設定。パスコード入力は10回間違えると、ロックがかかります。

2.パスコードロック:パスコード入力



パスコード設定の際は2回入力します。

3. パスコードロック: 設定について



「データを削除」を「ON」にすると、パスコードを 10 回間違えた際に、ユーザーID、パスワード設定も含めた「KDDIファイルストレージ」アプリケーションのすべてのデータが消去され、初期状態に戻ります。



上記「データの削除」を「ON」にした場合、パスコード入力を 10 回失敗すると、右図のように、データ削除のメッセージが出て、データが削除されます。

※「履歴」ファイルもアプリケーション内のローカルに保存されます。

※ローカルに保存された「お気に入り」のファイルは、同名のファイルがサーバ上で更新された場合は、一覧画面にて、最新のものに更新することが可能です。

※アプリの言語は端末の言語設定にしたがいます。

(Android: 日本語、英語対応)、(iPhone/iPad: 日本語、英語、中国語対応)

KDDI ファイルストレージ

ユーザーズガイド スマートデバイス 旧アプリ編

2015年12月

第1.1版

KDDI 株式会社

Copyright © 2015 KDDI CORPORATION All Rights Reserved.

本書に記載されている情報、事項、データは、予告なく変更されることがあります。

本書に記載されている情報、事項、データは、誤りや落丁がないように最善の注意を払っていますが、本書に記載されている情報、事項、データによって引き起こされた遺失行為、傷害、損害などについて、弊社は一切、その責任を負いません。

本書を弊社に無断でその一部、あるいはその全部を複写、複製(コピー)、追加、削除、加工および転載することを禁じます。